

平成ライダーと令和ライダーの力を授かった教師

常磐レン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、一人の教師と9人の戦姫が繋ぐ未知の物語。▼教師を務める【滅月レン】は大事な恋人こと【銘菓月詠】をノイズから守れなかった。▼それが、きっかけで【レン】の中に存在する力が覚醒する。▼それから、【レン】は自分の力以外信用できなくなってしまった。▼そして、【レン】が戦姫と出会う時少しづつではあるが彼の中で何かが変わり始める。

目次

原作前

EP : 00	怒りの覚醒!! その名は仮面ライダーバルカン	1
EP : 01	夢と助けを求め声	4
EP : 02	欲望の王VSネフィリム	7
EP : 03	悲劇のライブと風の戦士仮面ライダードライブタイプ	10
フォーミュラ	前編	10
EP : 04	悲劇のライブと風の戦士仮面ライダードライブタイプ	13
フォーミュラ	後編	13

原作前

EP:00 怒りの覚醒!!その名は仮面ライダーバルカン

レン「ノイズ貴様等だけは残さずぶっ潰す…!」

と言って俺はオオカミの描かれたプログライズキーをこじ開けて、プログライズキーを起動させる。

『バレット!』『オーソライズ!』

オオカミの力を宿したプログライズキーをエイムズショットライザーに装填しベルトから取り外し、俺はあの言葉を呟く

レン「変身!」

『ショットライズ!』『シューティングウルフ!』

ショットライザーから発射した青い弾丸を拳で弾いてアーマーを装着し、この世界に本来なら存在しない筈の仮面ライダーバルカンが誕生する。

そして、俺は

バルカン「行くぞ!ノイズ共、一匹残らずこの場で消し炭にしてやる!!」

と言ってショットライザーを手に持ち走り出す。

そもそも、どうしてこうなったかと言うと今から二時間前に遡る。

ーレン視線ー

レン「今日から、学校の先生かあ」

と俺が一人、呟いてると後ろから誰かが抱き着いて来るので振り返るとそこにいたのは

レン「なんだよ?月詠」

月詠事、俺の大切な人だった。

すると、月詠は

月詠『緊張してるかなあ〜って思ってた来てあげたのに、なんだよって言う事無いんじゃないの?レン』

と言うので俺は

レン「緊張なんかしてないさ。楽しみなんだよ」

と言うと月詠は首を傾げながら、

月詠「楽しみって何が？」

と笑顔で言うので

レン「とある人が言っていた。俺には夢は無いが夢を守る事は出来るってな？」

と俺が言うとも月詠は

月詠「その言葉と楽しみって言う言葉と何が繋がるのよ？」

と言うので俺は

レン「先生って生徒に夢を与える仕事だろ？だからさ、俺も少しはあの人達に近付けたんじゃないかなって、思ってしまったんだよ」

と言うとも月詠は

月詠「ならさあ、私の夢が消えそうになった時は守ってくれる？レン」

と言うので俺は

レン「ああ、お前の笑顔は絶対に守ってみせるよ。月詠」

と言うと、月詠は笑顔で

月詠「ありがとね、レン」

と言うと俺にはまたしても抱き着いてくるので俺は

レン「ちよ!？」

と言いながらも、少し笑ってしまふ。

ー現在ー

俺はノイズ共に向かってショットライザーでノイズ共を一体ずつ、撃ち倒していく。

そして、心の中で

バルカン（何を守るだ!!俺は、アイツ（月詠）の笑顔一つさえ守れなかったじゃないか!!）

と俺自身にイラつきながらもノイズ共を殺していくと俺の前に他のノイズよりデカイ、ノイズが現れるので俺は

バルカン「消える!!この世から消えてしまえ!!ノイズ共ガアアアアアアア!!」

と叫びながら、俺は巨大ノイズに向かって青いオオカミ型のエネルギーギ一弾で対象の四肢を拘束し、

『バレットシューティングブラスト』

トドメの一撃で撃ち抜くと同時に辺りを見回すとノイズが消し炭になった事を確認すると、変身を解き地面に力なく膝を突き

レン「クソがああああ!!」

泣き叫ぶ。

EP:01 夢と助けを求める声

滅月レンは夢を見ていた。いや、夢というよりは記憶、追体験のようだ。

その青年は無欲でありながらも届く場所の救いの手を絶対に見捨てない青年だった。

ある怪物と出会い古代の王の力を使うことになった青年。

「ただこの手が届くのに手を伸ばさなかつたら、死ぬほど後悔する。それが嫌だから手を伸ばすんだ。それだけ」

「映司、目え覚ませ!!」

「さあて、稼ぎますか」

「伊達さんを死なせません」

「欲望ある限り、何かが変わり、生まれる。今日という日を明日にすることさえ欲望だ」

「アंक、いくよ・・・変身!!!」

「タカ!!クジャク!!コンドル!!タ〜ジャ〜ドル〜♪」

気づいたら目を覚ましていた。

自身の見た夢を思い出しながら体を起こしたが違和感を感じた。

寝る前は何も持っていなかったはずなのに、握っている拳の中に何

かあることに気がついた。

拳を開き自身が持つていたものを見て驚愕した。

レン「俺は貴方を何かより、全然欲望深いみたいです。火野映司さん」

と言って、赤、黄、緑色の三枚のコアメダルとオーズドライバーを強く握りしめると

レン「そういや、セレナちゃんは元気にしてるかな？」

と言って、あの時、まだ月詠が生きている時に出会った

少女の事を咄嗟に思い出したので俺は

レン「久しぶりに会いに行きますか!!」

と言って準備を始める。

―それから、3日後―

レン「久しぶりだな、此処に来るのも」

と言っているといきなり爆発音が聞こえるので俺は

レン「今の音はセレナちゃんが居る研究所の方だよな!?!」

と言って、近くに合ったライトベンダーにセルメダルを入れて、バ

イクモードに変形させると

レン「嫌な予感がする!!」

と眩くとライトベンダーに乗り、セレナちゃんの居る筈の研究所に

向かう。

―セレナ視線―

セレナ（此処で私が歌わなちや皆が死んじゃう!!）

そして、覚悟を決め絶唱を歌おうとした時、

セレナ「G a t r a n d i s 「□□□□□」キヤア!?!」

ネフィリムがいきなり攻撃してきたのを避けられず私は絶唱を中

断してしまう。

そして、ネフィリムが私に近付いて来るので

セレナ（嫌、まだお姉ちゃんも皆も助けられてないのに死ぬなんて

嫌だ!!誰か助けてよ）

と心の中で思っていると私の脳裏に一人の男の人姿が浮かび始め

る。

たった、一週間だけだったが私に色々な事を教えてくれた先生の姿が。

すると、私は自然と

先生「助けて、レン先生！」

と言った瞬間

レン「分かった!!」

と言って、私の前にバイクに乗ったレン先生がやって来ると、バイクから降りてベルトに三枚のメダルを入れて、丸いスキヤナーみたいな物でスキヤンし

レン「変身」

と眩くと

『タカ!』

『トラ!』

『バッター!』

『タ・ト・バッ・タトバ・タ・ト・バッ!!!』

と言う歌と共にレン先生は仮面の戦士になってネフィリムに向かって走り出す。

EP：02 欲望の王VSネフィリム

俺は化物にトラクローで切り掛かると怪物は俺の攻撃を左手でガードするので

オーズタトバコンボ「くっ、この化物硬すぎるだろ！」

と愚痴を言いながらも化物と距離を放し三枚の白色のコアメダルと入れて変えたとそのままスキヤナーでスキャンすると

『サイー！』

『ゴリラー！』

『ゾウー！』

『サ・ゴーズ……サ・ゴーズオッ！』

と言う音声と共に俺は仮面ライダーオーズサゴーズコンボになると同時に

オーズサゴーズコンボ「うおおおおおおお!!」

と叫びながらドラミングをすると怪物が後退りをするのを見て俺は

オーズサゴーズコンボ「行くぞ!!」

と言って怪物に向かって走り出すと怪物は

怪物「□□□□□□□!!」

と人の言葉ではないが叫び俺に向かって近づいて来るとそのまま腕を思いっきり振り下ろすので俺はそれを片手で受け止めてそのまま怪物を空いている腕で怪物の腹部を殴ると

怪物「oooooooooo!!」

と後退りをするが俺の左手を掴みそのまま地面叩き付けら

オーズサゴーズコンボ「くっ!!」

その痛みを耐えながら赤色の三枚のメダルと入れ変えてもスキヤンすると

『タカー！』

『クジャクー！』

『コンドルー！』

『タ〜ジャ〜ドルウ〜！』

と言う音声と共に仮面ライダーオーズタジャドルコンボになって空中に飛ぶ上がるとベルトをもう一度スキヤナーでスキヤンする。

『スキヤニングチャージ!』

と言う音声が鳴り響くと俺は

オーズタジャドルコンボ「セイハアアア!!」

猛スピードでネフィリムに向かって急降下しコンドルレッグが変形した、燃え盛る猛禽類のようなツメで両足蹴りをネフィリム叩き込むとネフィリムは

「□□□□□□□□!?!」

と言う声にすらならない断末魔を叫ぶと同時に爆発するので

オーズタジャドルコンボ「ハア、ハア」

と息を切らしながらも変身を解くとセレナちゃんの元へ行くと

レン『セレナちゃん、無事か?』

と聞くとセレナちゃんは

セレナ「レン先生!!怖かったよ、死ぬんじゃないかって思って、それで…それで…」

と言って泣きながら抱き着いて来るので俺は

レン「良く頑張ったね」

と言いながらセレナちゃんの頭を撫でると

セレナ「うわあああ!!」

と泣くのでそのまましばらく、セレナちゃんの好きなようにさせること数分後、

セレナ「もう行っちゃうんですか?」

とセレナちゃんが言うので俺は

レン「ああ、一応俺は教師だし一週間後からはまた学校も始まるしな」

と言ってライトベンダーに乗るとセレナちゃんは

セレナ「また、会えますよね?」

と言うので俺は

レン「ああ、もちろんだ」

と言ってヘルメットを被りライトベンダーのエンジンを掛けて空

港に向かい始める。

ーセレナ視線ー

「セレナ「レン先生ありがとうございます」

とレン先生の背中が小さくなって行くのを見て

セレナ「きつと私はレン先生の事が」

と呟くと内心

セレナ（今度会った時にこの気持ちを伝えないと）

と思っていると、

マリア「セレナ!!何処に居るのー!」

とお姉ちゃんの声がするので私はお姉ちゃん達の元へ向かって歩き出す。

EP：03 悲劇のライブと風の戦士仮面ライダー イブタイプフォーミュラ 前編

俺は今、学校を卒業した三人の男女に誘われてツヴァイウイングのライブ会場に来ていたので俺は

レン「本当に俺まで来て良かったのか？本来ならお前等だけで楽しむ筈だったのに」

と申し訳なく言う卒業生の漣が

漣「いいんですよ。先生には今までお世話になりましたし」

と言うと続けて海斗が

海斗「それにな、最近の先生月詠さんを亡くしてから元気無かったしな」

と言うと、次に残りの双子の龍花と龍牙が

龍花&龍牙「と言う事も踏まえて私（俺）達からの感謝のお礼だよ

（ぜ）！！」

と声を揃えて言うので俺は

レン「ありがとな…お前等!!俺は今、本当に嬉しいぞ!!」

と言つて卒業生の生徒達の頭を撫でると

いきなり電気が消えると漣が

漣「始まりますよ。先生」

と言うので俺はライブ会場の席に座るといきなり、頭の中に一つのビジョンが映り始まる。

そこには、生徒たちがライブ会場に大量に現れたノイズによって灰と化す光景だった。

そして、次の瞬間

レン（今のは一体!?!）

現実連れ戻されると海斗が

海斗「おい、先生大丈夫か？凄い汗だぞ?」

と心配してくるので、俺は

レン「ああ、大丈夫だぞ、海斗」

と言って、俺は

レン「ちよつと、席外すわ。直ぐ戻って来る」

も言うと龍花と龍牙は

龍花&龍牙「うん（ああ）！」

と言って、頷くので俺は会場の外に出るとトライロドンのドアを急いで開けるとベルトさんが

ベルトさん『どうしたんだい!? レン、凄い汗じゃないか』

と言うが俺はベルトさんに

レン「ベルトさんに頼みがあるんだ! もし、ライブ会場にノイズが現れたら俺にタイプフォーミュラになる許可をくれ!! 頼む!」

と言うとベルトさんの

ベルトさん『だが、タイプフォーミュラはまだ、「頼む! 此処で生徒達を救えなかつたら俺は死ぬほど後悔する!」ーッ!? 分かった、そこまで言うなら許可使用!』

言葉を遮りながらも頼むとベルトさんの許可が出るので俺は

レン「本当か!!」

と言った瞬間、ベルトさんが

ベルトさん『ただ、一つだけ守って欲しい事がある。』

と言うので、俺は

レン「何だ?」

と尋ねるとベルトさんは

ベルト『今の、フォーミュラのシフトカーはまだ、整備が追いついていない。使えるとしても10分が限界だ! それ以上無理に使うと君の身体に支障をもたらしてしまう。分かったかい? レン』

と言うので俺は

レン「ああ、分かった」

と言ってベルトさんと共にライブ会場の席に戻ると漣が

漣「先生、何処に行ってたんですの? もうアンコールが始まってますわよ」

と言うので俺は

レン「ああ、悪いな」

と言った瞬間、会場の天井が爆発するのと同時にノイズが現れるので漑の顔が

漑「の、ノイズ!？」

驚愕と絶望の顔に染まるので俺は落ち着きながら漑や海斗、龍花、龍牙に

レン「安心しろ、お前らは俺の命に変えても守るから」

と言って、四人の前に立てると

四人「「「え!?!」」」

と驚きながら呆然としていたので俺は

レン「ベルトさん、いくよ!!」

と呟くとベルトさんは

ベルトさん『OK!レン!スタート!・ユア・エンジン!』

と言うので俺は、ベルトさんを腰に巻きベルトさんに付いているレバーを回し、タイプフォーミュラのシフトカーを変形させ、手首のシフトプレスに挿して

レン「変身!!?」

変形したフォーミュラのシフトカーを起こし、

ベルトさん『ドライブ!タイプ・フォーミュラー!!?』

と言う音声と共に俺の体に青と白のレーシングカーのようなボディが付き、俺は仮面ライダードライブタイプフォーミュラになるとあの言葉を呟くとノイズ共に放つ。

ドライブタイプフォーミュラ「さあ、ひとつ走り付き合えよ!」

EP：04 悲劇のライブと風の戦士仮面ライダードラ イブタイプフォーミュラ 後編

俺はタイプフォーミュラになると

ドライブタイプフォーミュラ「ほらよつと!」

こちらに向かってくるノイズ共を高速で走り一体ずつ確実に倒していくと漣が

漣「先生その姿は一体!?!」

と言うので俺は

ドライブタイプフォーミュラ「この姿はとある警察官が一般市民をロイミュードと言う怪物から守る為に使った力の一つ。その名も仮面ライダードライブタイプフォーミュラ」

と言うと漣は

漣「仮面ライダー!?!」

と驚愕の表情をしていたので俺は

ドライブタイプフォーミュラ「どうしたんだ?」

と聞くと漣が

漣「先生!!私も戦います!」

と言うので俺は

ドライブタイプフォーミュラ「漣、お前何言ってる!?!」

と言うと漣は俺の横に立つとある物を取り出すので俺は

ドライブタイプフォーミュラ(なんで!?!漣がマツハドライバー炎を
持つてるんだ!?!)

と心の中で驚愕していると漣はマツハドライバーを腰に巻きシグナルバイクを取り出して

漣「Let's! 変身」

と言ってマツハドライバーにセットしてマツハドライバーのスロット部分下げると

『シグナルバイク!シフトカー!ライダー!ライダー!マツハ!!』

と言う音声と共に仮面ライダーライダーマツハになるので俺は

ドライブタイププフォーミュラ「なんで!? 澁が仮面ライダーに!?」
と叫ぶと澁は

マツハ「まあ、私だけではありませんが?」

というので俺は「まさか!」と思い後ろを振り向くと龍牙と龍花そして、海斗もそれぞれベルトを持って腰にセットし、

『タドルクエスト!』

『ガシヤット!!』

海斗「変身!」

『ア〜イ! バッチリミロ〜! バッチリミロ〜!』

龍牙「変身!!」

『ウエイクアップ!』

『クローズドラゴン!』

『Are you ready?』

龍花「変身!」

それぞれの音声と共に三人が同時に「変身」と呟くと

『ガチャーン! レベルアップ! タドルメグル! タドルメグル! タドル
〜クエスト〜!!』

『カイガン! スペクター!! レディゴー! 覚悟! ドキドキゴースト!!』

『Wake up burning! Get CROSS—Z
RAGON! Yeah!』

と言う音声と共にそれぞれが仮面ライダーになり俺の横に並び立つ。
つ。

すると、ブレイブに変身した海斗が言うと

ブレイブ「先生手伝います!」

それに続きスペクターとクローズに変身した龍牙と龍花も

スペクター&クローズ「ライダーは助け合いで(しよ)(すよね)

!!」

と言うので俺は

ドライブタイププフォーミュラ「全く、お前等は揃いも揃って困った
生徒達だな」

と言いながら内心

ドライブタイプフォーミュラ（まさか、生徒達に手伝ってもらおう日が来るなんてな…けど、何だこの罪悪感は!?!）
と思いながらそれぞれライブ会場の全てのノイズを倒しに走り出す。